

令和4年度  
教職課程  
自己点検評価報告書

令和5年3月  
神戸女子短期大学

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
基準領域 1	教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
基準領域 2	学生の確保・育成・キャリア支援	4
基準領域 3	適切な教職課程カリキュラム	6
III	総合評価	8
IV	教職課程 自己点検評価報告書作成のプロセス	8
V	現状基礎データ一覧	9

## I. 教職課程の現状及び特色

### 1. 現状

- (1) 大学名：神戸女子短期大学 幼児教育学科 幼稚園教諭二種免許状
- (2) 所在地：神戸市中央区港島中町4丁目7-2
- (3) 学生数及び教員数（令和4年5月1日現在）
  - 学生数：幼児教育学科 84名
  - 教員数：幼児教育学科専任教員 10名

### 2. 特色

本学の建学の精神である「神戸女子短期大学の教育は、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」と定めている。そのためには人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な国民の育成に、力をつくすにある。」に基づき、教職が女性にとって社会に進出し、社会に貢献するための素晴らしい職業の一つであるとの認識のもとに、それぞれの学部・学科の教育目標（ティプロマポリシー）、学位プログラム（カリキュラムポリシー）を基本に教職課程を設置している。

建学の精神を「自立心」「対話力」「創造性」の三つのキーワードにより表現しているが、正に現代の教員として必要とされる資質能力の形成につながっている。建学の精神及び教育綱領を踏まえて、学園創始者の思いを引き継ぎ、教職員と学生との間に親密な関係のある学園として、学生一人一人を大切にした教育（例えば、少人数ゼミ、クラス担任制等）を実践している。教職課程における学生指導にあたってこの立場は一貫しており、このような姿勢によって、人づくりに最も大切な自立した個人として他者との信頼関係を育む力の形成を図っている。

また、本学の教職課程運営の拠点として関係する事項を統括し、教職課程の円滑な運営を行うこと並びに学生の学校教育職員として必要な資質能力の育成・向上を目的に掲げて平成19年度に教職支援センターを開設した。

本学は教員養成を教育・研究の大きな柱の一つにおいている。

(幼児教育学科のカリキュラム目標：URL)

<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html>

## II. 基準領域ごとの自己点検・評価

### 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### (1) 基準項目1-1 教職課程教員に対する目的・目標を共有

##### 【現状説明】

本学では、昭和30年4月に初等教育科を開設し、小学校教諭の免許状授与資格が認定され、翌昭和31年4月に幼稚園教諭の免許状授与資格も認定されたが、平成21年4月より小学校教諭免許状授与の課程認定を取り下げ、幼児教育学科に改組した。

教員免許状の取得を卒業要件とはしないが、卒業のための必修科目に教職科目が組み入れられており、教員免許状を取得しやすいように配慮されている。

また、平成19年4月より大学における教職課程に係る組織・運営体制を大幅に刷新し、全学の教職課程の拠点とすべく教職支援センターを組織した。(資料②)平成23年にはポートアイランドキャンパスに教職支援センターを設置し、令和2年からは短期大学教員養成カリキュラム委員会の機能を教職支援センター運営委員会に集約し、大短一体化した運用を開始した。(資料①)大学全体としての教員養成の目的をセンターとして策定したうえで、各学科(大学を含む)において学位プログラムに応じた目標を策定し、教職支援センター運営委員会を通して全学的に共有している。教職支援センター運営委員会は原則として月1回開催している。教育課程について学科の状況を詳らかにし、見直しを行っている。教職支援センター運営委員会での審議の状況や方針については委員(教職支援センター構成員)が学科会議との橋渡し役となって共有している。特に「教員養成を主たる目的とする学科」である幼児教育学科では、教職支援センターとして掲げる本学の教員養成の目標を踏まえつつ、幼児教育学科の3つのポリシーを具体化すべく教職支援センター運営委員会において適宜確認を行っている。

##### 【長所・特色】

前述したように建学の精神を「自立心」「対話力」「創造性」の三つのキーワードにより表現しているが、正に現代の教員として必要とされる資質能力を培うことにつながっている。

本学の教員養成に対する理念は、

- ・人間の成長や発達について専門的理解を持ち、愛情にあふれた教師
- ・豊かな教養と深い専門的知識を身に付けた実践的指導力のある教師
- ・自立心・対話力・創造性を備えた高い専門的資質と人間性を身に付けた教師
- ・教師としての使命感と誇りを持ち、教育の専門家として主体的に自己を向上させる教師

を育成することである。

幼児教育学科は、人間の成長や発達について専門的理解を持ち、子どもへの愛情にあふれ、職員や保護者さらに地域の人々と豊かに交わることのできる保育者としての高い資質に備え、社会にとって有為な自立した女性を育成することを目的としている。

この教育目的を基本として、幼児と触れ合う機会を多く持ち、幼児理解に努め、一人ひとりの育ちに応じた援助や指導ができ、自己課題や保育感を問い続け専門的知識や指導実践力を有する教員を養

成している。

また、教員養成に関する取り組みをホームページにおいて積極的に発信している。

#### 【取り組み上の課題】

幼児教育学科は教員養成を主たる目的としている学科であることから、学科としての取り組みは積極的ではあるが、教職課程に係る FD・SD 活動のさらなる充実を図る必要がある。

大学全体における教員養成の目的・目標や幼児教育学科の教職課程の目的・目標を明文化し視覚的に周知できているとはいえず改善の必要がある。

さらに、Society5.0 等への今日的な教育課題や目標の反映についてもカリキュラムレベルでの取り組みが必要である。喫緊の課題として ICT を活用した指導法の確立がある。

教職支援センターにおいて種々の課題についても共有し、解決を図りたい。

#### <根拠となる資料、データ等>

- ・資料①：神戸女子大学・神戸女子短期大学教職支援センター規程
- ・資料②：教職支援センター要覧

## (2) 基準項目 1—2 教職課程に関する組織的工夫

#### 【現状説明】

前述の通り本学園では、平成 19 年 4 月より運営体制を大幅に刷新し、全学の教職課程の拠点とすべく教職支援センターを組織し、現在では大短一体の組織として運営している。センター長には部局長の中から学長が任命することとしている。教職課程を置く学科から 1 名（大学と共通であり、教育学科からは複数名）がセンターの構成員として参加することと規定し、教職課程運営の詳細は教職支援センター運営委員会で審議することとして一体的に運営し学内連携を図りやすい体制としている。なお、教職支援センター課長は、毎月開催される教務委員会の構成員として位置づけられている。これにより全学に周知することが必要な案件に関する報告を行うとともに、全学的な教学に関する議題に教職課程の意思を反映させている。

また、ポートアイランドキャンパス教職支援センターに 1 名の常駐の専門指導員を配置し、常に学生指導及び相談が可能な体制を敷き、学習面の指導は主に学科の教員がおこなっている。さらにセンター内には、事務組織も配置されており、教職協働で一体的に教職課程の運営を行う組織としている。

(資料①) (資料③)

#### 【長所・特色】

センターでは日常の学生指導・相談とそれに係る事務だけではなく、次の事項についても所管している。

- ・教職課程に係る教員人事
- ・教職課程の編成と検証
- ・教育実習の実施計画履修資格判定及び評価
- ・教職課程認定科目のシラバスの点検、改善

- ・教員育成協議会 等々

これらがそれぞれ「点」ではなく、相互に関連して「面」として機能するものとの考えで規程に明記して取り組んでいる。資料④

教員人事においては、設置基準上の要件はもとより、教職課程認定上の要件も重視して行われている。

平成 24 年度から FD・SD の取り組みとして、毎年度末に教職課程に特化した「教職課程研修会」を開催している。扱う内容は大きく二つで、一つは直近年度の本学学生の教員採用試験結果と採用環境の概況。もう一つは国の施策動向や課程認定に関する内容である。この研修会は学内にセンターの活動を周知して協力を求めていくことにも役立っている。(資料⑤)

#### 【取り組み上の課題】

教職支援センターとして実際の活動は部局長であるセンター長の下で前述した取り組みを教員と職員が一体となって運営しており、特に教職課程の編成や教員人事など教学の本質的な部分を担う組織ではあるが、教学組織規程に規定されておらず(資料⑥)、学内組織上は便宜上「教学・研究部門に準ずる部門」に過ぎない。内部質保証の観点からも名実ともに「教学・研究部門」の組織として規程上の根拠を明確にする必要がある。センター長は現状では大学教育学科を擁する文学部長が歴代兼務しているが、教育学科以外の学科所属の学部長となったときに機能するかどうか不透明である。その観点からも教学組織規程に定められた「教学・研究部門」として独立したセンター長を置くことができるように早急に整備の必要がある。

センター職員としての後継者育成も大きな課題である。カリキュラムの管理、教員人事の管理をはじめ、教職課程運営を全面的に下支えする職員育成が急務である。

#### <根拠となる資料、データ等>

- ・資料①：神戸女子大学・神戸女子短期大学教職支援センター規程
- ・資料③：令和 4 年度 神戸女子大学・神戸女子短期大学事務分掌組織図
- ・資料④：平成 4 年度教職課程に係る科目のシラバス作成ガイドライン
- ・資料⑤：教職課程研修会案内リーフレット
- ・資料⑥：神戸女子大学・神戸女子短期大学教学組織規程

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### (1) 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

#### 【現状説明】

本学の教職課程、教員養成の特色については、学園広報誌(資料⑦)、大学案内(主に高校生向け)(資料⑧)、ホームページ(資料⑨)、教職支援センター要覧(資料②)等において発信している。

また受験生向けの進学説明会、校内説明会、高校訪問等において積極的な広報活動を行ったり、教職支援センターの HP において、『私の合格 story』として、採用試験に合格した学生の体験談を発信した。(資料⑩)

幼児教育学科の必修科目の中に教職課程の科目の多くが位置付けられており、学生の教職課程の履修を促進するカリキュラム構成となっており、9割を超える学生が教免を取得し、幼稚園・保育所・こども園・施設等へ就職していることから、教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れていると言える。

教職支援センターでは、学生に対する情報提供や専門指導員による相談・指導等を担当している。同センターには各都道府県の教員採用の過去問題集や参考書等を準備し、求人票についてはシステムを利用し、学生がいつでも確認できるようになっている。

短大独自に週1回開催されているカレッジアワーを利用し、教職課程の目的、履修時の心構え、履修方法、教育実習履修条件、教員採用試験対策等を教員、職員が分担して説明をすることで履修への道案内としている。

教育実習実施について（履修資格判定）は幼児教育学科会議において履修状況等を基に行っているが、日頃の出席状況や授業態度などから努力が必要な学生についての意欲の確認、激励等を行っている。

#### 【長所・特色】

幼児教育学科と教職支援センターが連携し、教職を担うべき適切な学生の確保・育成は、組織的に一貫した取り組みが行われている。

#### 【取り組み上の課題】

明らかに不適合と判断できる学生の対応をどうすべきかについて、特に学生自身よりも保証人が「教員免許状だけでもとらせたい」との思いがある場合の教育実習実績の可否に関する方法を整備する必要がある。

#### <根拠となる資料、データ等>

- ・資料⑦：学園広報誌
- ・資料⑧：大学案内 2022
- ・資料⑨：教職支援センターHP URL
- ・資料②：教職支援センター要覧
- ・資料⑩：短大 HP（私の合格 Story）

### (2) 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

#### 【現状説明】

教職支援センターに専門指導員を配置し、キャリア相談、学校ボランティア情報の提供、教員採用試験に於ける面接対策、模擬授業対策、集団討論対策、実技指導対策等々は、教職支援センター構成メンバーの教員だけではなく学科教員と協力して実施している。（資料⑪）

また、採用試験に向けても継続的に意欲の持続と士気高揚を図るために段階を踏んだ対策講座の企画・運営を行っている。

教員をしている卒業生を招いた催し「ホームカミングデー」を学園祭と同時開催し、身近な先輩の

学校現場での奮闘ぶりや教採対策の経験談を聞く機会を設けている。

また、幼児教育学科とセンターが連携し、「保育士就職セミナー オン キャンパス」(資料⑫)を開催し、明石市や洲本市等の行政の方からの説明会も積極的に開催している。

#### 【長所・特色】

早い時期より対策講座を開催している。まず自分の現在の力量を知り、高等学校までの振り返りを交えた「一般教養講座」を設定し、「幼保基礎講座」へと繋げていき、教採対策突破力の底上げを図っている。また、並行して、ライブラリー・コモنز(ラーニング・コモنز)(資料⑬)配属の指導教員(元高等学校の教員等)の協力を受けながらコモنزの利用を促すことで相乗効果をもたらしている。

また、行政(明石市・洲本市・西宮市(遠隔))による説明会を実施している。

教職支援センターでは、教職課程の運営において、カリキュラム運営、実習等の連携、キャリア支援などの取り組みが組織的に決定・実施される体制が整えられている。

大学が運用する進路支援システム「S-navi」及び学事システム「manaba」並びに「KISS システム」を学生が利用することにより、面接の申し込みや、教員採用情報の周知を効率的に運用している。

#### 【取り組み上の課題】

対策講座や相談業務を担当する専門指導員の負担軽減は課題である。学科教員のさらなる協力が得られるように努める必要がある。そのための何らかのインセンティブは必要である。

施設・設備においても、スペース的に手狭になってきているが、代替スペースがない状況である。

#### <根拠となる資料、データ等>

- ・資料⑪：教職課程年報
- ・資料⑫：第1回シンジョ幼教保育士就職セミナー オン キャンパス
- ・資料⑬：ライブラリー・コモنز

### 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

#### (1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### 【現状説明】

教職課程を有する学科は、幼児教育学科のみとなっている。

教職課程認定科目としては、施行規則上の要件単位にとらわれず、学位プログラムの専門科目の中から学科が「教職に必要」と判断した科目を教職課程認定科目として申請し認定されている。従って、結果的に法定単位を若干上回る単位を課している。(資料⑭)

##### 【長所・特色】

教職課程認定科目(教科専門、教職専門問わず)の改廃については教職支援センター運営委員会に諮る手順を踏むこととし、教科専門と教職専門、教科指導の各科目間の系統性の確保において共通理解を図るようにしている。

保育内容の指導法では小グループでの模擬授業とその省察を行っている。



兵庫県教育委員会や神戸市教育委員会の教員養成指標を配布し、学生へも学内掲示などで周知を図り、教職課程での授業、学生には教育実習時の参考資料として活用できるよう配慮している。

**【取り組み上の課題】**

履修カルテは手書きファイルを活用しているが、学生の個人能力差が見受けられるため、学生へは個別能力に応じた指導が必要である。今後は、保育教職実践演習の授業において改善を要する。教員、職員が有効的に活用しやすい環境でないことから、教職実践演習等の授業での活用や教職指導での活用が限定的となってしまう。そのための整備を行う必要がある。

<根拠となる資料、データ等>

- ・資料⑭：学生便覧 2022年度

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

**【現状説明】**

教職実践演習においてフィールドワークを必ず取り入れた内容としている。

教育実習実施に当たっては、履修条件を設けて一定レベルをクリアした学生に対して実施するようになっている。この条件をクリアできるように学生自身の努力は当然ながら、学科教員が学生指導に当たっている（資料⑭）

また、神戸市教育委員会の教員育成協議会に加盟しており、定期的に意見交換や育成指標の作成、改訂への提案を行う機会がある。

**【長所・特色】**

教職実践演習では、学内での授業に留まらず、必ず近隣の学校園でのフィールドワークを実施し、ゲストスピーカーとして園長だけではなく、卒業生も招聘するなど学生自身が2年間積み上げてきたものの総仕上げとしている。また、目前に迫る「教壇に立つ」という意識の確認となるよう工夫し指導力を育成している。

履修カルテについては、手書きファイルを活用しており、履修カルテをベースに保育実践力を可視化するため、各年次の最終に自己評価表を作成し、数値化することにより個々の能力を客観的に把握することが可能となった。

**【取り組み上の課題】**

遠方での教育実習実施時の訪問指導が手薄となっており、その対策の検討も必要である。

<根拠となる資料、データ等>

- ・資料⑭：学生便覧 2022年度

### III. 総合評価

#### 【現状に対する評価】

本学の建学の精神である「神戸女子短期大学の教育は、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある。そのためには人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた、心身ともに健康な国民の育成に、力をつくすにある。」に基づき、教職が女性にとって社会に進出し、社会に貢献するための素晴らしい職業の一つであるとの認識のもとに、学科の教育目標（ディプロマポリシー）、学位プログラム（カリキュラムポリシー）を基本に学科に免許課程を設置している。

大学、大学院、短大全ての教職課程の運営を全学的に且つ一元的に運営すべく教職支援センターが存在している。本学の教職支援センターは単に学生の教員免許状取得と教員採用試験合格のみを目的とするのではなく、本文で述べてきたように、凡そ教職課程に係る多岐にわたる事項を扱っていることに特徴がある。結果、そのことが学生の生涯にわたる教職キャリアの形成に寄与できるものとする。

教職課程の自己点検については、平成19年の教職支援センター発足時より教職課程年報の編集発行と言う形で毎年度の振り返りを行うと共に次年度の企画・計画策定に活かしている。いわゆるPDCAを機能させている。

教育課程の改編や教員人事に関しても教職課程に係る内容については教職支援センターとの協議を前提とすること、教職課程科目のシラバスガイドライン資料④の策定やチェック体制、教員採用試験対策をはじめとした学生の教職キャリア形成、教員育成協議会への参画や教育委員会への訪問による意見交換、教育委員会を学内へ招いての合同説明会（教職フェア）の開催、（資料⑮）等々について、個々には課題はあるが、概ね順調に運営ができていると考える。

したがって、自己評価としてはS A B C Dの5段階とすれば、「A評価」であると判断する。

今後も学生支援内容の検証、教育委員会との連携強化、教育課程の不断の検証・改善、そして教職支援センターの活動を学内外へより発信することで教員志望学生の増加、教員不足解消に微力ながらも貢献していくことが本学教職課程の使命であるとする。

<根拠となる資料、データ等>

- ・資料④：平成4年度教職課程に係る科目のシラバス作成ガイドライン
- ・資料⑮：第1回「神女教職フェア」プログラム

### IV. 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書作成に当たっては、教職支援センター発足時より毎年度、「教職課程年報」を作成していたこともあり自己点検の素地は整っていたため、ガイドラインに沿った内容に、改めて見直しを行う作業から開始をした。

具体的には、年度初めの教職支援センター運営委員会において、作成項目等の確認を行い、教職支援

センター内においてエビデンスに基づき素案を作成した。教職支援センター長の確認と了承を得た後、教職支援センター運営委員会で、素案の内容を審議し、修正したものを最終稿として、本学の自己点検・評価を所管する内部質保証委員会に諮った。内部質保証委員会での意見等を反映し、内容修正したものを完成稿とした。

#### V. 現状基礎データ一覧 令和5年5月1日現在

設置者					
学校法人 行吉学園					
大学・学部名称					
神戸女子短期大学					
学科やコースの名称					
幼児教育学科					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教育採用者数等					
① 昨年度卒業者数					42名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					41名
③ ①のうち、教員免許取得者数の実数 (複数免許取得者も、1と数える)					38名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					27名
④のうち、正規採用者数					25名
④のうち、臨時的任用者数					2名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	6名	2名	2名	0名	0名
相談員・支援員など専門職員数 専任1名					